

「大好きなお姉ちゃん」

第2回 KYOTO KAKIMOTO 恋文大賞®

手紙(文章)部門 <小学生の部>

今年の四月、高校生になって家を出て行ったお姉ちゃん。もう高校生活にはなれましたか。私は五年生になり、勉強することが楽しくなりました。

勉強しているなことを知ったり分かったりすることが楽しいと思えるようになったよ。

お姉ちゃんは、チヨコをいつも散歩に連れて行ってたね。

チヨコが大好きなおふろに入れるのもお姉ちゃんだった。

一番仲良しのお姉ちゃんと一緒にいるときのチヨコは、元気いっぱいだったね。

だからかな。お姉ちゃんが家を出てから、お姉ちゃんをさがすようにだっ走ることが増えました。

チヨコをつかまえると「私だって、お姉ちゃんの所へ行って話をしたいことがたくさんあるんだぞ。」と

話しかけながら家に連れもどしているよ。

今、私が楽しみにしていることはお姉ちゃんからメールがくることなんだよ。

けいたい電話を持っていない私は、お兄ちゃんにとどくメールを見せてもらっているよ。

今度、私のかみの毛を切ってくれると約束してくれたメールを読んだときは本当にうれしかった。

お姉ちゃんは長い休みがあったり用事があったりすると、家へ帰ってくるよね。

帰ってきた時はうれしくて、何から話そうか、何をしようかと考えるだけで笑みがこぼれてくるよ。

だから、チヨコを散歩に連れ出し、チヨコの話からするんだ。

そしたらチヨコもご機げんで、私達の会話を耳にしているからね。

でも、楽しい時間はあっという間にすぎさって行くよね。

別れの時はあんまりさびしいから「バイバイ。」は口に出さずに心で言っ見送っているんだよ。

お姉ちゃん、私の気持ちに気付いてくれますか。

毎日会っていたときには気付かなかっただけとお姉ちゃんの大きさを毎日感じているよ。

次に会うときは、もっとむねをはって自分の話をできるように、私、がんばるね。